



今日は、皆さんが夏にやりたいこと、行ってみたいところを紹介します！

（所属／①名前 ②夏にやりたいこと・行ってみたいところ ③その理由は？）



けやき社会センター
① 西原 聖 さん
② 海外のビールの飲み比べ
③ ビールが好きだから



けやき社会センター
① 安香 さん
② 水族館
③ お魚がみたいから



はるか (B型)
① A・K さん
② いろんな本を読みたい
花火も興味がある
③ 好きだから



はるか (移行)
① K さん
② 日光東照宮
③ 昔いったことがあるので、
久しぶりに行きたい。



おおばん
① 平井 信夫 さん
② スイカを食べたい
花火を見たい
③ 実家で食べたスイカが
美味しかったから



おおばん
① 野口 翔 さん
② 家族旅行で鬼怒川へ行き、
SL・大樹を撮影・乗車したい
③ SNS にアップしたいから



ふれんず
① 宮串 瞭悟 さん
② プール
③ 水遊びがすきだから



ふれんず
① 高井良 昊 さん
② サファリパーク
③ 野生動物が見られるから

～編集後記～

今年度広報委員会委員長になりました松崎です。つくばね会に入職して 6 年目、まだまだ未熟ですが周りの職員の力を借りながら自分らしく精一杯努めていこうと思います。

委員会では全世代の方に読みたい！と思って頂ける通信を発信していきたいと考えています。私生活では日本酒が飲めるかっこいい女性になりたいです。どうぞ温かく見守ってください！

（ふれんず 松崎 李星）

～ そ よ 風 の よ う に 街 に 出 よ う ～

S S T L

つ く ば ね 通 信



社会福祉法人つくばね会
代表 千葉県我孫子市都部新田 3 7 - 2

TEL 0 4 - 7 1 8 7 - 1 9 4 4

FAX 0 4 - 7 1 8 7 - 1 9 4 7

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか

おおばん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

植物に魅了され、3 年が経ちました。特にアガベという植物にどっぷりハマリ現在 5 0 種類 1 0 0 0 株ほど育てています。アガベは多肉植物の一種で世界に 3 0 0 種類以上あると言われ、テキサスの原料や、ヘルシーな甘味料と話題になったアガベシロップなどが有名です。メキシコやアメリカなど乾燥している地域に自生しており、日本では観葉植物として園芸店などで売られています。珍しいものでは何十万、何百万円するものも。まさに骨董品のよう。私は高価なものは買えないので、できる限り安いアガベで楽しんでいます。時々嫁の目を盗み、お高いご褒美アガベをゲットしたりも♪(笑)

アガベは数十年、ものによっては 100 年に一度しか花が咲かないと言われる貴重な植物で、じっくりゆっくりと生長し、一生に一度だけ咲かせます。開花までに長い年月がかかることから「センチュリーフラワー」や「センチュリープランツ」とも呼ばれています。そして、儚いことに咲き終わると、その一生を遂げます。実際は数十年で咲いてしまったりするようで、時々アガベの開花がニュースになることも。私が育てているアガベは、まだ開花はしませんが、将来自分の開花したアガベで受粉させ、ハイブリットアガベを作り出すことが目標です。

海外から輸入するアガベは、輸入国の生態系に影響を与える害虫や病気を広げる可能性があるため、根がない状態で運ばれてきます。なので自宅に届いたらまず根を生やす発根管理作業から始めます。これがまた難しい。カビが生えてしまったり、根が生える前に傷んで溶けたりしてしまいます。そんな失敗を何度も繰り返しましたが、根が生えてきたときは毎回テンションが上がっています。またアガベは熱帯地域に自生しているものが多いので、日本の気候に合わないものも多くあり、苦労しながら育てています。耐寒性・耐暑性・耐凍性や放射冷却など、今まで聞いたこともないワード、考えたこともないことも、植物を育て始め、季節に応じて対策しています。特に耐寒性や耐凍性などには気をつけており、気温がマイナスになる日は植物に不織布をかけ霜対策をし、朝アガベが傷んでないか毎日チェックしていました。やっと暖かくなり現在園芸シーズン真っ只中！！野菜作りや花などで園芸店もたくさんの人で賑わっています。週末は、いつも庭活しているので日焼けが止まらない。美白には一生なれない…(笑) この 3 年で培った知識(現在進行中)を無駄にせず、仕事に生かせるよう模索中♪我孫子市でアガベが流行る日もそんな遠くないです(笑)

（けやき社会センター 管理者 長瀬 俊広）

2025 年 6 月 14 日発行（毎月 12 回 2・4・6・8 の日）通巻 第 5641 号
1994 年 8 月 24 日 第三種郵便物承認
川口市芝新町 15 の 9 頒価 50 円
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会
郵便振替 001000-81411223



法人内 他事業所交換研修



私は就労継続支援 B 型、就労移行・就労定着の福祉サービスを提供している「はるか」での交換研修を行いました。研修を実施させて頂き、特に移行・定着は私の全く知らない福祉サービスを知ることが出来ました。

定着支援面談に同行させて頂き、対象者の支援だけではなく企業とのやり取り、そして限られた期間で定着に繋げるよう考えていくこと…利用者一人ひとりの特性を短期間で可能な限り汲み取り、動いていかなければなりません。長い目で、スモールステップでゆっくりと支援を行うということは必ずしも出来るわけでは無いということを感じました。

人生を決める大きな役割を職員は背負っており、そのプレッシャーを日々感じながら支援を考えていくこと、辛さや葛藤を抱えながら、利用者と「就職」という大きな目標を目指しているからこそ、「やりがい」を感じることが出来るのだと思いました。しかし企業に就職が決まることはとても喜ばしいことと同時に卒業、お別れということになる…就職に向けて様々な壁にぶつかりながら一緒に乗り越えてきたという事実がある為、私自身想像をはるかに超える感情が常に生まれているのではと感じました。

はるか利用者の方々とたくさんコミュニケーションを取ることが出来たこともとても楽しかったです。また、はるか職員の皆さんと話が出来たことは、更に貴重な時間になり今後も事業所間でのコミュニケーションは交わしていきたいと強く思いました。

同じ思いを持った職員がいることは私にとって今後の働き方、目指すべき方向が明確になっていくことを実感しました。
（けやき社会センター 吉田 寛貴）

昨年 8 月の終わりから 5 日間、同法人の『楓』へ研修に行かせていただきました。『楓』は居宅介護や移動支援のサービスを提供している事業所です。

居宅介護は、ヘルパーが利用者さんのご自宅に訪問するので、初めて会う人を受け入れてもらえるかな？と心配がありました。初めて会う人は緊張しますし、自分が生活している様子を見られるので、緊張や警戒することが自然なことだと思います。

私はこれまで、初めてお会いする方には、優しく温かい雰囲気を作り、笑顔で、心に寄り添うこと、丁寧に距離を保つことを常に心掛けてきました。今回実習をするにあたり、いつも以上に意識していこう、と考えていました。私が実習中行ったことは、買い物代行、利用者さんと一緒に掃除・洗濯・調理をする、通院等の付き添いです。同行した職員の言動は勉強になるものばかりでした。その方の状態を瞬時に見極め、いつもと違う様子だけでなく、部屋の状況等も含め判断し、今どのような状態にあるかを推測しています。それを推測する為には、常日頃のコミュニケーションや信頼関係も重要になります。

このサービスは、ただ〇〇に困っているからそれを手伝うのではなく、その方の意思を尊重しながら、少しずつでも自分自身で出来るように、自立した生活を支援する必要があります。多角的な視野をもつことが大切だと改めて学びました。これはどの仕事にも共通して言えることであると思います。実習を快く受け入れてくれ、貴重な時間をくださった利用者の皆様に感謝しています。

今後の利用者支援に役立てられるよう、精進していきたいです。
（はるか 大野 有珠）

けやき社会センターに異動して

8 年ぶりに再びけやきで働くことになりました。久しぶりにパンに携わり、とても懐かしく意外と成形の仕方などは忘れていなく体に染みついているものだ実感しました。生活介護事業所に移行したこともあり、1日の流れなど以前のやり方とはだいぶ違っていて、他にも HACCP(ハサップ)、原価計算など課題も多く、どうしていくべきか戸惑いもありますが、今のやり方が今のけやきの利用者にはあっていて、楽しいいい雰囲気で作業されている様に感じています。この皆さんの居場所が今後も継続する様、自分が出来る事を1つずつクリアしていきたいです。

また、以前一緒に働いていた利用者の変化も大きく、今まで培ってきた関係性を基に少しでも落ち着いて過ごせる時間を提供出来る様に、今後も傾聴の姿勢を忘れず話をする時間を設けていきたいと思います。

（けやき社会センター 竹内 麻奈美）

つくばね会に入社して、4 年目となる今年度、けやき社会センターに異動となりました。児童から成人に代わり、事業内容も一変。最初は私に務まるかどうか不安感が強くありました。が、全ての作業班に入り、利用者の皆さんがやさしく作業を教えて下さり、また沢山お話していく中で、皆さんやりがいを持ちながら、けやきに楽しく通所されている事が伝わり、私も未熟ながらも力になりたいと感じました。

また、ふれんずを利用していた／利用している方々が、けやきでは仲間とテキパキ仕事に取り組まれている様子が見られ、驚きと感動を受けました。

私も3年間ふれんずで学ばせて頂いた経験を活かし、けやきの皆さんと徐々に関係性を築きながら皆さんの熱量に負けずに頑張っていきたいと思います。
（けやき社会センター 白井 花帆）

ピカピカの達成感！洗車訓練で磨く、働くための大切な力

はるかでは、利用者の方々が社会で活躍するための様々な訓練プログラムを提供しています。今回ご紹介するのは、その中でも実践的なスキル習得につながる「洗車訓練」の様子です。

「働く」ということは、単に知識やスキルを身につけるだけでなく、段取り力、丁寧さ、集中力、そしてチームワークといった様々な要素が求められます。洗車という一連の作業には、これらの要素が凝縮されていると言えます。

一つ一つの工程に集中し、丁寧に作業を行うことで、集中力や持続力が養われます。また、時間配分を考えながら効率的に作業を進める段取り力も身につきます。

この洗車訓練で特に大切にされているのが、「報告・連絡・相談」です。

- 作業の進捗状況を報告すること
- 道具の不足や困ったことがあれば連絡すること
- 判断に迷う場合は相談すること

これらは、社会で働く上で非常に重要なコミュニケーションスキルです。

訓練を通して、相手に分かりやすく伝える力や、周囲と協力して仕事を進める力を育みます。

はるかで行われている洗車訓練は、単に車を綺麗にするだけでなく、働く上で必要となる様々なスキルや考え方を身につけるための貴重な機会となっています。ピカピカになった車体のように、利用者の方々の未来も輝かしいものになるよう、職員一同サポートしていきます。
（はるか 宮澤 大地）



福祉のきっかけ

私は大学在学中、もともと児童分野に興味がありました。子どもたちの成長を支え、日々の生活をサポートする仕事に魅力を感じていたためです。しかしある授業で障害分野の先生が実体験を交えた話や動画を用いたわかりやすい講義をしてくださり、その内容に興味を持ちました。その先生が話す現場での具体的なエピソードや障害を持つ方々がどのようなサポートを必要としているのかという話は、私の想像とは違い、面白いと感じました。

それをきっかけに私はより深く障害分野に興味が湧き、もっと学びたいという思いから短期間の実習に参加させていただき、障害分野への関心が一気に高まりました。実習では、障害を持つ方々が日常生活の中で直面する困難や、そのサポートを行う職員の創意工夫を見る事ができました。利用者との関わりの中で少しは役に立てたと思えたこともあり、非常にやりがいを感じました。また、その経験を通して障害分野で働く実感を持つこともできたと思いました。

さらに、大学生活の中でボランティア活動にも積極的に参加し、障害を持った方々と実際に関わる機会が増えました。その経験から座学の知識と現場での体験がつながる機会もありました。日々接する中で、障害を持つ方々が困難を乗り越えながら前向きに生活している姿や、周囲のサポートの大切さを学び、私自身もその助けになりたいという気持ちがありました。

こうした学びや経験を通して障害分野で働きたいという思いが強くなり、福祉職員を目指すことを決意しました。これから働いていく中で経験を積ませていただき、支援が必要な方々に寄り添える福祉職員となれるように成長していきたいと思います。

（はるか 工藤 あみ）



“できない”ではなく、“やってみる！” ～初めての居宅支援～

今年度より、新たに移動支援・居宅支援の「楓」にも携わらせていただくことになりました。移動支援に関してはこれまでも経験があり、ある程度業務の流れや対応には慣れていたのですが、居宅支援に関しては初めての取り組みとなり、正直なところ始める前には不安な気持ちが大きくありました。

実際に支援に入ってみると、どこまで支援を行って良いのかという線引きや、精神疾患をお持ちの利用者様に対する声掛けや接し方について、どういった関わり方が望ましいのかなど、日々の支援の中で考えることは本当にたくさんありました。自分の中で「これで大丈夫だろうか」と迷うことも多く、常に模索しながらの毎日でした。約一ヶ月経過し、少しずつ不安も和らぎ、利用者様との関係にも徐々に慣れてきたように感じています。ただ、振り返ってみると、まだまだ自分の中で十分な知識や理解が足りないと感じる場面も多く、関わり方や支援の在り方については、今後も積極的に研修に参加したり、関連する書籍を読んだりなどして、自身の引き出しを増やしていく必要があると強く感じています。

まだまだ、現場で十分に力を発揮できているとは言えないかもしれませんが、だからこそ今の段階から丁寧に利用者様一人ひとりのニーズをしっかりと理解し、より適切な支援が行えるよう日々努力を重ねていきたいと考えています。支援における基本的な姿勢として、業務中に感じた困りごとや疑問点については、その日のうちに管理者に相談・報告を行い、早い段階で解決につなげられるよう努めています。こうした積み重ねが、よりよい支援体制の構築につながると信じて、今後も真摯に業務に向き合っていきたいと思います。

（楓 植木 恒太郎）

おおばんバザーと地域との繋がり

今年度、バザー担当になり、おおばんは年間にどのくらいのバザーに参加させていただいているのだろう？と気になり、改めて確認してみました。令和 6 年度ではその数なんと約 20 回ほど！現地での焼きそばの販売もあれば、おおばんで作ったお弁当・唐揚げなどを持っていくこともあります。

バザーは主に手賀沼周辺から布佐地区までの我孫子市内で行っています。バザーの参加は職員だけでは到底できません。そこでおおばんの利用者の出番です。休日の土日にも関わらず積極的にバザーへ参加していただきます。職員が焼いた焼きそばを黙々と計量しパック詰めする方、パック詰めした焼きそばにトッピングをする方、さらにその焼きそばを接客係に渡して販売する方と、ある程度の一連の流れ作業が決まっています。特に説明がなくとも行えてしまうので、さすがだな～と驚きながらいつも助かっています。

5/10 の土曜日には、手賀沼公園アビスタで福祉まつりが開催されました。この日は西日本の方では警戒級の雨予報。我孫子市も朝から雨模様でしたが、7：30 におおばんに集合しテント張りなども協力してくださった利用者もいました。おおばんにとってバザーはただの販売にはとどまりません。利用者のご家族や、久しぶりにお会いする友人の方など様々な方が来てくださいます。「久しぶり！元気だった～？」と声をかけてもらうと、嬉しそうな表情をする利用者を間近で見る事ができます。また、他の施設の模擬店にも足を運び、会話を楽しむ利用者もいたり、普段はおおばん内の仕事がメインの中、バザーは特別な交流の場になっていると実感しました。

今年もたくさんのバザーに参加して、おおばんの事をもっと知ってもらいながら地域との繋がりを深めていきたいと思います。機会があれば、ぜひ遊びに来てください！お待ちしております！

（おおばん 平間 聖佳）



ふれんずの様子

4 月から新しい施設に移転し、活動スペースが広くなりました。ボール遊びなどの体をたくさん使った活動ができるようになり、子どもたちもとても嬉しそうです。今年度から新しく利用を始めたお子さんたちも、少しずつ慣れてきています。

ご本人や保護者の方から好きなもの、いつも家でしていることなどを聞き、電車が好きな子には電車の話をしてコミュニケーションを図る、音楽が好きな子には歌が鳴る絵本をお渡しするなど、家にいる時と同じように安心して過ごしていただけるよう意識しました。そのおかげか、4 月の中頃にはふれんずでの生活にも慣れた様子で、だんだんと笑顔も増えてきたように感じます。

これからも一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、みんなにとって安心できる居場所になるよう、職員一同頑張ります。

（ふれんず 中林 佑樹）





そよ風フェスタ



4月26日(土)に、「来て！見て！知って！楽しんで！」という、キャッチフレーズのもと、第2回そよ風フェスタが開催されました。

昨年度は模擬店の出店、備品借用、地域の方々のおかげで大盛況のお祭りにすることができました。改めて感謝申し上げます。

さて、昨年に続き、今年も実行委員が集まって、今年はどんなテーマで、どんなイベントをやろうかなどを話し合いました。今回も南新木の沖田公園で開催するという事で、もっと「つくばね会」のことを、「福祉」のことを知ってもらいたいという意見が多く出ました。そこで今年のテーマが『来て！見て！知って！楽しんで！』でいこうと実行委員で決まりました。昨年のことを思い出して模擬店の数、販売する物、イベントの内容、会場の設営などの検討をしながらより良いお祭りになるよう準備を進めました。昨年は嬉しいことにおよそ500人のご来場者様にきていただき、今年はどれくらいの人に来てもらえるだろうか、期待と心配の両方の気持ちでした。



そして、そよ風フェスタ当日、後援会長の猫田様の開会宣言からお祭りがスタートしました。今年は、利用者の皆さんに楽しんでいただきたい、また1人1人が輝ける場を提供することで盛り上がるのではないかと実行委員で会議を重ね、当法人の事業所の利用者の方によるステージ発表、乗馬体験、シャボン玉アーティストの石井様の出演と、新しいことにチャレンジしてみました。

ステージ発表は、けやき社会センターで日頃からお世話になっているダンスの先生に依頼して早くから練習に励み、はるか、おおばんは、作業時間や訓練の時間を使い、何度も練習に取り組みました。はるかB型は、手話ダンスを行いました。手話が苦手な方は歌を歌い、手話や歌が難しい方は、折り紙で作った花を手に持ち踊っていただき、それぞれの得意なところを活かし練習をしました。はるか移行では、ダンスが得意な利用者さん、楽器を使うのが得意な利用者さんがそれぞれに分かれて練習に取り組みました。中には、ご自宅やお昼休みを使い、自ら練習に取り組んでいる方もいらっしゃいました。ふれんずは、手のひらに絵の具を塗って手形を押し、みんなでカラフルな木を作りました。「一緒に過ごした思い出を形に残したい」という思いから生まれた初めての共同制作。好きな色を選んだり、くすぐったさに笑い合ったりしながら、笑顔あふれる温かい作品が完成しました。

待ちに待った本番では、けやき社会センター、はるかB型、おおばん、



ふれんず、はるか就労移行の順番でステージ発表が始まりました。どの事業所も、利用者の皆さんはもちろんの事、お客様もたいへん盛り上がり、楽しいステージ発表になりました。ステージの上で、キラキラ輝く利用者の皆さんを見て、各事業所の良さが出ており、法人内でこのような機会も今までなかったので、発表を見てすごく感動しました。

また乗馬体験の馬の大きさや、初めて見るシャボン玉の量にはびっくりしました。体験をしている多くの子どもから大人までがすごく良い表情をされていたのが印象的で、それを見ていた運営スタッフも嬉しくなり自然と笑顔になっていました。

出店していただいた関係者様、ご来場者様のご協力もあり、会場内、各ブースも素敵な空間になり大盛況でした。販売ブースでは売れ切れになってしまうほど人気がありました。遊びスペースでは将棋・輪投げ・駒回しなどの昔遊びから、モルック・ボッチャのバリアフリース

ポーツで老若男女問わず、たくさんの方が楽しんでいる姿が見られました。

そして、今年も チーバくん と うなぎちゃん がお祭りに来てくれて一緒に盛り上げてくれました。登場すると、人気なゆるキャラだけに、一緒にたくさんの人と記念撮影をされていました。人気すぎて時には追いかけられる場面も。来年も来てもらえますように！

今年も多くのお客様が来場され、大いに盛り上がったまま終盤を迎え、最後は理事長による閉会宣言で、無事に第2回そよ風フェスタを終えることが出来ました。ご協力していただいた関係者の皆様、ご来場の皆様、今年もご参加いただきありがとうございました。「来て！見て！知って！楽しんで！」いただけたでしょうか。そよ風フェスタを機に、つくばね会のこと・福祉のことを少しでも知っていただけたら幸いです。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（実行委員 ふれんず 塚原 辰弥 / はるか 武藤 瑞穂）

次年度も開催予定です！お楽しみに！

